令和8年度 獨協医科大学大学院看護学研究科博士後期課程入学試験
【小論文】 出題意図･解答例

問題１

【出題意図】

看護研究は、新しい知の創出にとどまらず、患者や家族などの役に立つことが求められる。しかし、一本の論文が直ぐに患者や家族などの役に立つことは難しい。たくさんの論文の蓄積によって患者や家族などの役に立つことができる。一本の論文はその一歩であるということを認識しているかを問うている。

【解答例】

一般に、学術研究は研究者の知的探求心に基づく知的創造活動であり、その成果は人類の知や文化の発展に寄与する。学術研究の成果は論文として発表され、図書館などに蓄積される。研究成果は、すぐに一般人の役立つものもあれば、次の研究の礎となり、ゆくゆくは一般人の役に立つかもしれないというものもある。学術研究は役に立つものでなければならないという意見もある一方、真理の探究であり、新しい知が生み出されればそれでよいという意見もある。

看護研究は、看護ケアの質の向上により、患者や家族などに何らかの改善が認められることに寄与するものであることが期待される。その意味で、看護研究は役に立つものであることが望まれていると言える。しかし、一本の論文が即座に看護ケアの質の向上をもたらすということは難しい。いくつもの研究の積み重ねにより、はじめて看護ケアの質の向上がもたらされると考えられる。

看護ケアについて、様々なガイドラインが存在する。これらのガイドラインは、たくさんの論文を引用して一定の方法を提唱している。つまり、多くの研究成果の積み重ねである。一つ一つの研究の積み重ねがガイドラインを確立させ、看護ケアの向上につながり、患者や家族などのためになる。

これらのことから、ガイドラインに引用される論文を発表することも、看護研究の研究者としての一つの目標になるかもしれない。

問題２

【出題意図】

博士後期課程の院生として、看護研究を遂行するためには、自身の看護を客観的に振り返り、言語化する能力が必要であるため。

【解答例】

Kolb の「経験学習の理論」では、リフレクションによって実践から知恵を確保できるとしている。具体的には、以下のことを説明している。

1.リフレクションが経験学習の中核概念である
2.看護師が語るナラティブは、そこから引き出された教訓となる
3.自己の他の看護場面に適用できる
4.語ることを通じて、潜在化されていた問題意識が顕在化し、実践的知識を生み出す
5.経験を語る文化の中で、経験未熟な看護師も自らの経験を流さず注意深く洞察する習慣がつく
6.他人の経験から学ぶ姿勢を身に付けることができる

これらの内容に触れながら、自身の考えを述べている論文である。
その際の記述内容について、下記の基準を基にして評価する。
①以上の経験学習の効果を述べている
②看護実践として適用する場面を捉えている。
③自身の看護実践が具体的に記述され、読み手に伝わる。
④述べている自身の経験が上記の「経験学習」である。
⑤文章の構成が論理的である。
⑥論理に説得力がある。